

高齢化した中国帰国者 に対する介護支援

2015年10月27日(火)

東海・北陸中国帰国者支援交流センター
ボランティア研修会

名和田澄子

0. アファーマティブ・アクション としての帰国者支援

- 中国帰国者は 戦前日本政府により中国に開拓民等として移住させられ戦後長い間放置され帰国が困難であった。
- 国の責任で積極的に差別を是正する措置が必要
- **高齢化**を契機にしたアファーマティブ・アクションの結果「新・支援策」が2008年より実施される。
- 残された課題・・死にいたるまで「人間の尊厳」を尊重したケア 配偶者や子ども世代の問題
- 結果としての「人生の平等」

0. アファーマティブ・アクション

- アファーマティブ・アクション (affirmative action)
- 積極的に差別を是正する措置
- アメリカにおける特定対象の優遇や地位向上をねらった措置
- 対象は女性や人種・民族的少数者など歴史的・構造的な差別のために教育や雇用の面で不利な扱いを受けてきた・受けやすい人々

1. 経済的負担の解消

- 新支援法制定(2008年)後の帰国者の生活
経済的には安定したが老後の不安・心配
 - ・約8割の帰国者が帰国して「良かった」
「まあ良かった」と新支援策への一定の
評価
 - ・新支援策の満足度「満足」「やや満足」
74.9%

(厚生労働省社会援護局
「平成21年度中国残留邦人実態調査結果報告書」より)

2. それでも消えない老後の不安

- 老後の不安

将来に対する心配・不安

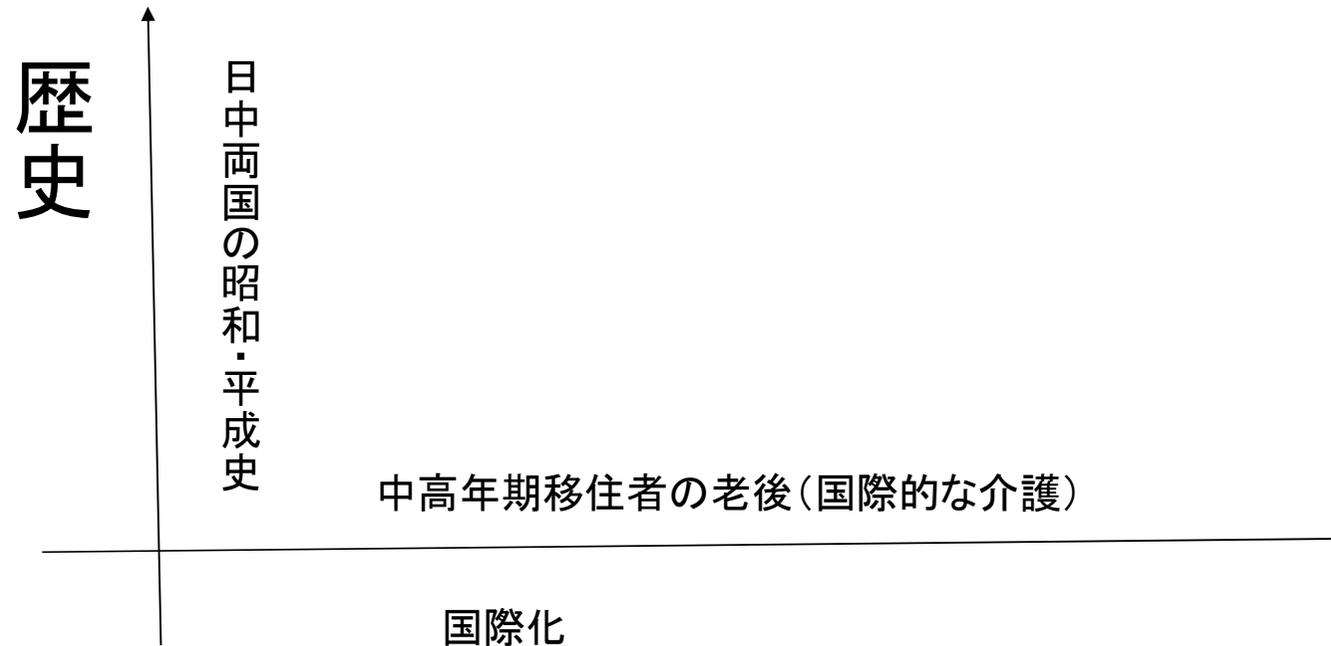
①健康の不安

②老後生活の不安(経済的)

③老後生活の不安(面倒を見てくれる人が
いない)

④子・孫の将来

3. 少数者としての中国帰国者



4. 介護(ケア)

- 孤児達の存在を丸ごと受け止めて支えていく取り組み
- 単なる介護福祉サービスの利用にとどまらない取り組み

全国調査(平成15年)介護認定 10.9%

そのうちサービスの利用状況73.3%

厚生労働省:「中国帰国者生活実態調査」(平成15年)

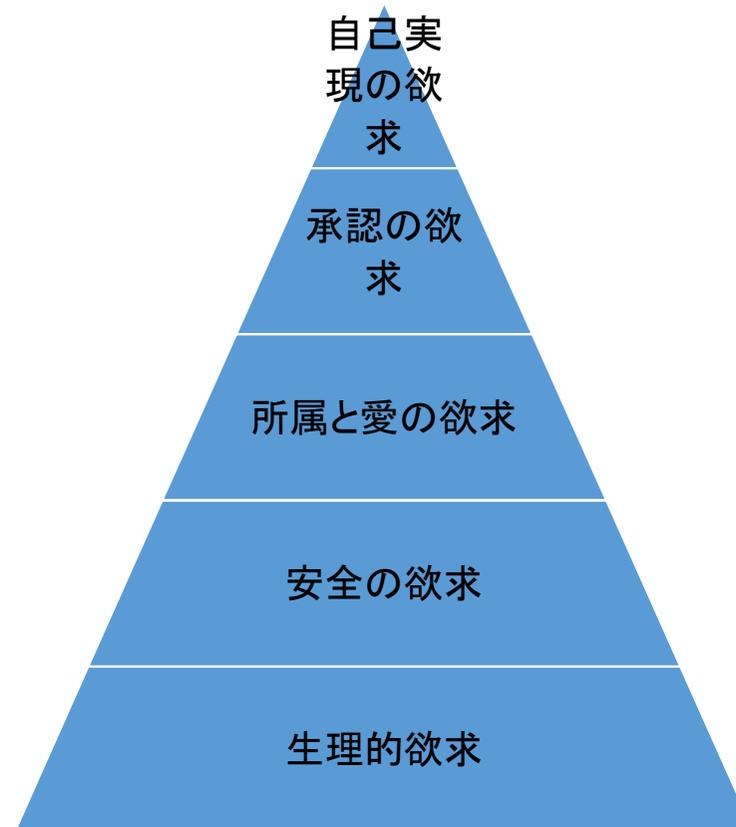
マズローの欲求五段階説

- ・ 所属と愛の欲求

情緒的な人間関係・他者に受け入れられている、どこかに所属しているという感覚

- ・ 承認(尊重)の欲求

自分が集団から 価値ある存在と認められ尊重される



6. 浮かび上がった問題点

更なる高齢化

1. 家族と介護

大家族では何とか対応できるが限界も
子ども世代の就労事情・価値観の変化

2. サービス利用に言葉と文化の壁

3. 情報弱者としての中国帰国者

介護保険制度等の情報が届きにくい。

4. 介護現場での中国帰国者への理解不足

7. 年齢から見た介護問題の特徴

- 残留婦人・邦人とその配偶者(1世)
 - 後期高齢者(75歳以上)高齢化
 - 婦人は日本語能力が高い
 - 配偶者は日本語に問題
- 残留孤児と配偶者(1世)
 - 孤児・配偶者とも日本語の壁 ダブルリミテッド
- その子どもたち(2世) 60代前後で要介護状態に
- 養父母

8. 全国的な状況

- 「適度な集中と分散」政策により帰国者は全国に点在
- 中国帰国者に集中・特化した事業が展開しにくい
- 日本の介護・医療制度が多様化、細分化している。個別なニーズに家族との関係、経済的なことが絡んで種々なサービスを利用している状況

9. 介護保険利用をためらう理由

- 制度の複雑さ 言葉の壁からくる情報不足
- 公的制度の持つ限界
(必ずしも個別性は高くない)
- その人の価値感や倫理感
- 日本で排除され差別されてきた経験から
新しい制度や人間集団に容易に飛び込んで
いけない

10. 介護保険利用へのアクセス

介護保険制度に対する周知度の低さ

制度利用への経路

- 福祉事務所からの紹介
- 医療機関からの紹介
- 支援交流センター、支援相談員等からの紹介
- 親族、友人、近隣の人達からの紹介
- ボランティア等からの紹介

11. 医療と福祉サービス

- 医療サービスの価値・・・**健康**
医療系職員の持つ専門性

- 福祉サービスの価値・・・**生活の自立**

サービス利用者の生活の中での多様な価値観
と主体性

12. 認定調査(一次判定)

平成21年度版

聴力

74項目

第1群 基本動作・起居動作機能の評価

13. 聴力



- 普通
- 普通の声なら何とか聴きとれる
- かなり大きな声なら何とか聴き取れる
- ほとんど聴こえない
- 聴こえているのか判断不能

13. 認定調査(一次判定)意思の伝達

第3群 認知機能(記憶・意思疎通)の評価

1. 意志の伝達

- 調査対象者が意思を他者に伝達できる
- ときどき伝達できる
- ほとんど伝達できない
- できない

6. 今の季節を理解

- できる
- できない

14. 認定調査(一次判定) 社会生活適応に関する

第5群 社会生活適応に関する評価

3. 日常の意思決定

できる

特別な場合を除いてできる

日常的に困難

できない

4. 集団参加ができない

5. 買い物

15. 認定調査での正確なアセスメントを促すために

- 帰国者の言葉の壁
- 日本社会で生活した年数が一般の日本人より少ないことからくる情報量不足
- 中国での生活様式やふるまいなどを認知症と誤解されがち
- 帰国者の状態とその要因との因果関係を的確に反映してほしい
認定調査での帰国者加算←認知症加算

16. 介護計画(ケアプラン)の作成

居宅介護サービスの利用の場合

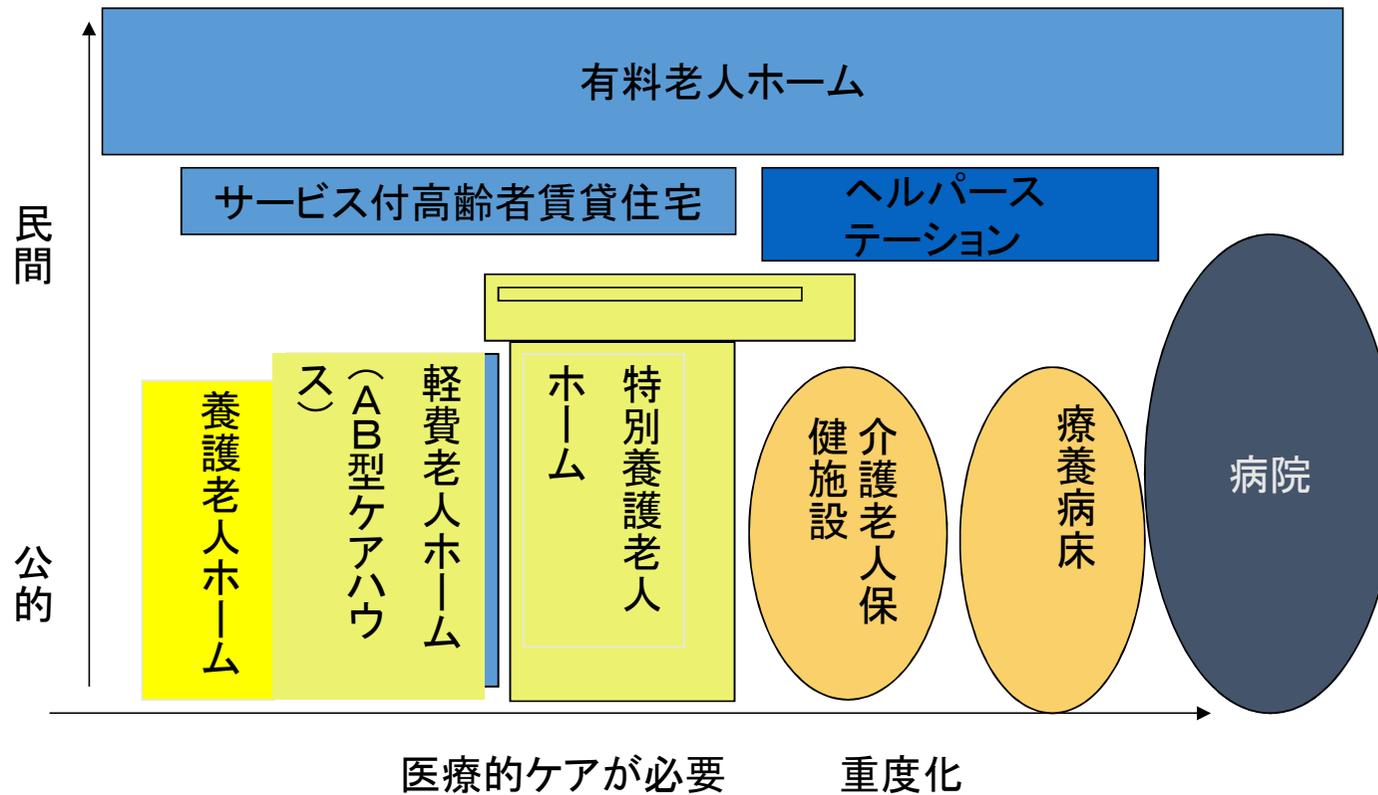
- 要介護度に応じたサービス限度額があることを本人や家族にどのようにして理解を促していくのか？
- ケアプランに対する本人や家族の合意をどのように形成していくのか？
- 折り合いがつかない場合の調整

17. 施設サービス利用の現状

過去の事例から

1. 特別養護老人ホームへの入所
2. 養護老人ホームへの入所
3. 老人保健施設への入所
4. 精神病院への入院
5. 有料老人ホームへの入所

18. 老人ホームの種別



19 これからの帰国者介護

- アファーマティブ・アクションとしての帰国者介護
結果としての「人生の平等」

- 帰国者介護の独自性 帰国者の社会的不利
を具体的に顕在化させ 制度の改革へ

【介護保険と申請主義】

- 帰国者に介護保険の適確な情報提供を心がける
- 支援者が福祉専門職に帰国者に関する情報提供を
心がける